寿で暮らす人々　５９

寿地区ってどんな町（街）　その２

　前回、寿の町は移動人口で維持されてきた町と述べました。下の表を見て下さい。

寿の町の人口の推移です。平成9年以降今日までは、だいたい6,500人前後で推移しています。1年間で350人前後の人が亡くなったり、転居したりします。それとほぼ同じ数の人たちが移動してくるようなので、ほぼ同じ人口で推移することになるのです。

寿地区簡易宿泊所の人口推移（昭和５９年１２月～平成１４年１２月）　寿福祉センター調べ

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年　度 | 総人口 | 外国人  （再掲） | 宿泊所軒数 | 高齢者  （再掲） | 生活保護 受給者数 | 備　　　　　考 |
| 昭和５９年 | 5,653 |  | 91 | 504 | 2,675 |  |
| ６０年 | 5,694 |  | 94 | 588 | 2,424 |  |
| ６１年 | 5,718 |  | 91 | 628 | 2,238 |  |
| ６２年 | 6,004 |  |  | 711 | 2,250 |  |
| ６３年 | 5,967 |  | 88 | 744 | 2,270 | 横浜市越年プレハブ対策開始 |
| 平成 元年 | 6,151 | 533 | 88 | 780 | 2,341 | 外国人人口統計開始 |
| ２年 | 6,362 | 814 | 90 | 817 | 2,199 |  |
| ３年 | 5,334 | 1,146 | 90 | 920 | 2,291 |  |
| ４年 | 6,476 | 1,059 | 90 | 1,056 | 2,590 |  |
| ５年 | 6,205 | 932 | 92 | 1,382 | 3,188 |  |
| ６年 | 6,331 | 1,083 | 91 | 1,650 | 4,129 |  |
| ７年 | 6,340 | 651 | 92 | 2,083 | 4,672 |  |
| ８年 | 6,248 | 465 | 94 | 2,042 | 4,835 |  |
| ９年 | 6,401 | 424 | 97 | 2,219 | 4,904 |  |
| １０年 | 6,495 | 377 | 99 | 2,573 | 5,274 |  |
| １１年 | 6,678 | 309 | 103 | 2,600 | 5,440 |  |
| １２年 | 6,429 | 222 | 105 | 2,808 | 5,511 |  |
| １３年 | 6,589 | 223 | 109 | 2,924 | 5,621 |  |
| １４年 | 6,559 | 205 | 109 | 3,039 | 5,738 |  |

生活保護受給者数は、各年度１２月の数（中福祉保健センター統計）。

総人口、外国人人口、ドヤ軒数は、各年度１２月３０日の数。

高齢者（６０歳以上）人数は、各年度１１月の数（横浜市寿生活館調）。

　平成元年から平成7年までの外国人の人口の推移を見て下さい。急激に増えて急激に減っていることが一目瞭然ですね。これは日本のバブル景気に重なるのです。あるドヤは、外国人出稼労働者御用達よろしく占められていた、ということもありました。寿の町は、アジアの日雇労働市場と化した観がありました。寿は社会の変化と分かちがたく結びついているだけでなく、その変化を柔軟に受け入れる町ということができるのではないでしょうか。

　寿は「怖い（恐い）街」といわれますが、寿の躍動感を数字的な面からでも見てみると、それはいかにも皮相的な見方であるということがよくわかるのではないでしょうか。知らないから身勝手な想像が膨らむのかもしれません。寿の町は、常に社会との関わりが深く変化に富んだ町なのではないでしょうか。そして、平成4年から60歳以上の人口が急激に増加し、同時に生活保護を受給する所帯も増加しています。

　さて、人口調査ですが、寿の町のようなドヤの人口調査は、東京の山谷ドヤ街、大阪の愛隣地区ドヤ街ではされていません。なぜでしょうか？それは多分、できないということではないでしょうか。5年ごとの国勢調査はされていると思いますが、その結果は総人口の多分半分以下でしょう。

　寿の人口調査の内容を説明しましょう

　人口調査日は毎年12月30日。12月20日から25日までの間に、人口調査のお願いと「調査票」を管理人さんに手渡し記入の説明をします。「調査票」の内容は極めてシンプル。単身者、夫婦、子ども、男女別です。年齢や仕事などの内容を入れたら、手間も期間もかなりかかるでしょう。多分協力も得られないでしょう。記入は管理人さんにしていただきます。ドヤにとまっている一人ひとりに記入していただくのは不可能です。字や表を見ただけでポイ…ト捨てられてしまうでしょう。清々しいくらいのものです。だから管理人さんの理解と協力が不可欠です。

ドヤは旅館ですからお客さんの数は税金に関わりがあります。そのため、旅館組合を通じ経営者にも了解を得て管理人さんに伝えてもらいます。オーナーにも了解を得ています、と言えれば管理人さんの理解は得やすくなります。もうひとつ大きな力になっているのは、日頃からの管理人さんとのお付き合いや信頼関係があることです。これは横浜市寿生活館草創期の職員たちが、地域の方々と共に活動を積み上げてきた信頼関係が今になるも生きているからなのです。このことは、寿にはあっても山谷や愛隣地区にはないものなのです。だから、山谷や愛隣地区では人口調査はできないのです。

　そんなわけで、調査内容は簡単だけれども信頼関係がなければとてもできない調査なのです。調査は僕一人で始めました。晦日と大晦日、寿を駆けずり回りながら調査票を回収します。もっとも、根気よくお願いしてもがんとして協力していただけない管理人さんやオーナーもいます。そんな時は、一部屋ずつノックして確かめます。留守の場合は差し紙しておきます。隣の方に聞くと住んでいないかも含め消息がわかります。ドヤの知り合いの労働者が、「お前さん、こんな時までテエ変だなあ、助けてやろう」と手伝ってくれることもありました。すべてを回収し集計が終わるころ、横浜港に停泊している船が新年を告げる汽笛を鳴らします。

　人口調査の統計を見て、以前当施設で実習をした若者が「面白そう」と一緒にやらせてと協力を申し出てくれました。年々そんな方が口コミで増えていきました。地区を分けてやることができるようになりました。そのうちに、寿地区の団体や横浜市や、神奈川県が人口調査結果を活用するようになりました。匡済会も、統計の持つ意味を受け止めアルバイトを雇用する予算を組むようになりました。集計にパソコンを持って参加してくれる若者がいました。その威力に仰天したものでした。この人口調査は、手弁当の人たちによって継続してきたものでもありました。

　31日夜、統計も終え集計も終わる頃、食事の支度をします。調査結果をみんなで論評。乾杯！明るい相談室に街の酔っ払いも参加、一層にぎやかな場になりました。

　国勢調査の実施ですが、横浜市中区の統計課と段取りや内容を相談しながら、寿福祉センターと寿地区自治会が中心になって寿で活動する諸団体の職員から調査指導員を選び、管理人さんに調査員になってもらうなど他の地域と違う方式で行います。自分が管理するドヤの宿泊者に調査票を配り回収するのです。細かい字がびっしりと書かれた表に記入するのは大変です。国民の義務と丁寧に記入する方もいますが、多くの人はやりたがりません。結局、最低限男女別と生年月がわかればということになります。それでも回収できません。寿地区の国勢調査で把握できる人口は、4千人台というところが限界です。

　さて、平成14年、寿福祉センターの相談所はその役割を終え閉鎖することになりました。平成15年以後の人口調査の継続は、横浜市寿福祉プラザ相談室にお願いいたしました。意義ある調査なので引き続き実施になったのだと思います。以後、今日まで寿の人口調査は続いています。但し調査日は11月1日となりました。

　以前はなぜ12月30日だったのか。これは僕の独断でした。理由は、当時は飯場に住み込みで働いていた人たちが寿へ戻ってくることが案外多かったこと、ドヤを根拠に働いていた人が帰郷することなどがあったので、なるべく寿の実人口に近いということで選んだのですが、あまり大きな誤差はなかったかもしれません。

　無味乾燥な数字の羅列と見えても、社会情勢の推移をよく表すものでもあります。この数字の変遷を見ているとその時々の社会状況やいろんなことが思い出されます。

　平成22年度の総人口は　６，５７２人（外国人　49　ドヤ軒数　124　部屋数　8,818

　高齢者数　4,320　生活・住宅扶助受給者数　5,230）となっています。

　次回、また考えます。